

「わたしの恵みはあなたに十分」

コリントの信徒への手紙二 12章9～10節

日本キリスト教団聖学院教会牧師・聖学院みどり幼稚園園長・チャプレン 赤田 直樹

「わたしの恵みはあなたに十分」！ キリストは今日、この礼拝に集った私たち一人ひとりに、そう告げています。そしてキリストは、わたしの「力は弱さの中で完全に現れる」（聖書協会共同訳）と、今日語っています。「わたしの恵みはあなたに十分」、「力は弱さの中で完全に現れる」！ これが今日、主なる神さまが、私たちに語ろうとされているメッセージです。

でもどうでしょうか。正直に言うと、私はなかなかそう思えませんでした。「『わたしの恵みはあなたに十分』って、どこがだよ。わたしの『力は弱さの中で完全に現れる』って、どこがだよ…」。そんなふうに思いながら、ずっと生きてきました。

私は、聖学院大学の卒業生なのですが、学生の頃は、落ちこぼれでした。学生時代は、失敗ばかりやらかして、いつも落ち込んでいて、きっと周りにいた先生も友だちも「コイツ大丈夫か？」って、ヒヤヒヤしていたのではないかと思います。

「自分の生きる意味って何だろう。自分の存在に、価値があるのだろうか」。そんな風に悩んでいる時、大学のリトリートで、あの聖書の御言葉に出会ったのでした。「ところが、主が言われた、『わたしの恵みはあなたに対して十分である。わたしの力は弱いところに完全にあらわれる』（口語訳）。

これが、使徒パウロが、復活のキリストから聞いた言葉だと言うのです。きっと目に病気を抱えたパウロが、何度も祈った末に、与えられた答えだったというのです。そして、2000年前にパウロにそのように語ったキリストは、私たちにも「わたしの恵みはあなたに十分である」と語っておられると言うのです。

その時は正直「どこがだよ」と思いました。「自分の思い描いていた人生、歩めなかったよ。人間関係、上手くいかないことばかりだよ。「わたしの恵みはあなたに十分」って、どこがだよ。それホントなら、神の力、完全な仕方であらしてくれよ」。そんなふうに思ったのです。

でも、心のどこか奥底で、その御言葉が本当であって欲しい、とも思いました。「いつか、この御言葉が本当だった！と心の底から思えるようになれば、どんなに素晴らしいんだろう」とも思ったのです。

私は、学生時代に、ハンドベル・クワイアに入っていたのですが、その時に秋田の教会に演奏旅行に行きました。その教会は、聖学院を生み出したディサイプルス派の宣教師達が、

日本で一番最初に生み出した教会でした。その時、ガルスト宣教師と共に伝道したスミス宣教師の奥様のお墓に案内されました。お墓の前に立った時、「自分は今聖学院の学生だけど、そのように生きるために、死んでくれた人がいたんだ」と思いました。宣教師達の命がけの伝道が無ければ、聖学院は無かった訳で、聖学院大学も無かったし、自分の学生生活も無かったからです。

その後、牧師になる志が与えられて、同じくディサイプルス伝統のある滝野川教会で神学生、伝道師、副牧師として過ごしました。いつも失敗して、おこられてばかりでしたが、そんな私を神さまは導いてくださいました。

やがて私は、秋田にある秋田高陽教会の牧師となりました。秋田高陽教会というのは、ディサイプルス宣教師達、スミス宣教師とガルスト宣教師が一番最初に作った教会、そして学生の頃に演奏旅行に行ったあの教会です。私は、秋田で15年間、牧師をしながら、自分の存在のルーツがディサイプルス伝道にあると知って行きました。

私の実家は、「キリストの教会」という小さなグループの、東村山にある教会なのですが、「キリストの教会」というのはディサイプルスが、後に枝分かれして行ったグループでした。父はそのグループの牧師で、母もまたそのグループの牧師の娘でした。ですから、スミス宣教師、ガルスト宣教師が日本に伝道しなければ、母教会のグループも日本にはなかったかも知れませんし、きっと私の両親は出会ってないので、私は産まれていなかった、ということが、後から分かったのです。そして、スミス・ガルストが伝道しなければ、聖学院も無かったし、滝野川教会も無かったし、秋田高陽教会も無かった。そこで過ごした私の青春、その後の人生も無なかった、ということが、後から分かってきたのです。

スミス宣教師の妻の墓は秋田に、ガルスト宣教師の墓は青山墓地にあります。宣教師たちは、私がこのように生きるためにも、命を捨ててくれたのだ、ということが分かりました。同じように、皆さんがこの聖学院大学で青春を過ごすことができるのなら、それは、皆さんがここで生きるために、かつて宣教師たちが命を捨ててくれたからなのです。

一体どうして、宣教師たちはそのような生き方ができたのでしょうか。それは、キリストが十字架で命を捨ててくれたそのリアリティに触れたからだと思うのです。キリストが、命を捨てた。私たちが本当に生きるためにです。だから、宣教師たちもキリストの弟子として、それに倣って生き、生き抜いたのです。

そのような神さまは、私にこの4月から聖学院教会の牧師になるようにと声を掛けて下さいました。失敗ばかりで、怒られてばかりだった自分に務まるのか。私は、相当に悩んで、祈りの中で神さまに相談しました。「神さま、自分には能力ありません。聖学院教会に行ったら、学生の頃の、あんな失敗、こんな失敗、知ってる人たくさんいます。神さま、自分は弱く、乏しい者でしかありません」。そんな時に、あのキリストの御声が、聴こえたのです。「ふざけんな。能力が有るとか無いとかで、お前を選んだんじゃない。私は、漁師のペトロやヨハネ、徴税人のマタイやザアカイ、迫害者のパウロでさえをも用いて、伝道したんだ。お前という弱く乏しい器を使って、私自身が働くんだ。『わたしの恵みはあなたに

十分』なんだ。わたしの『力は弱さの中で完全に現れる』んだ。だから心配するな。わたしについて来い」。

私は、そのように答えてくださったキリストに信頼して、従ってゆくことにしました。そして私は、聖学院に戻って来て、自分に命が与えられた事の意味がますます分かるようになって来ました。神さまは、ディサイプルスの宣教師たちを用いて一番最初に秋田から伝道を始め、やがて聖学院を創られたように、秋田で過ごした弱く乏しい私を用いて、神さまご自身が聖学院の一人ひとりに主の愛を伝えようとされているのだと思うのです。

そして、自分の生きている意味や、自分の存在の価値が分からなかった、あの辛く苦しく歩んだ道のりも、全ては今に繋がっていたのだと、今になって思います。

若い皆さんには、悩みや不安も多いことと思います。時には、乗り越えられないような苦難を感じることもあるでしょう。でもきっと、いつの日にか必ず、自分はこのことのために命を与えられたのだ、と分かる時が来ます！

苦難は必ず乗り越えられるのです。それは、自分がスゴいからではなくて、たとえどんなに弱くても神さまに信頼するならば、自分の力を超えて、神さまが働かれるからなのです。いやすでに、神さまは働いておられ、私たちが気付くのを待っておられます。学生時代、失敗ばかりやらかして、いつも落ち込んでいて、周りからいつも心配されていた、こんな私をも、神さまは聖学院教会の牧師として用いてくださるのです。だから、神さまは、ここに集う、若くて、可能性を持っている、あなたを用いられないはずはありません。

神さまは2000年前にパウロに語り、私にも語ってくださったあの御言葉を、今日、ここに集うあなたに語って下さいます。「わたしの恵みはあなたに十分」なのだ。あなたが強いから神さまの力が働くのではない。あなたが弱い時にこそ私の力が「完全に現れる」のだ。このキリストの御言葉に、信頼して、安心して、一緒に生きてゆきましょう。

2020年10月13日 聖学院大学 全学シリーズ礼拝「苦難を乗り越える」